

「メリバ」 ～神様へは感謝による願い～

出エジプト13章～17章

神様は私たち一人一人に、やらなくてはいけないことを教えてください。その事をしないと、アマレクが攻め込んできて、神様の素晴らしい約束を奪ってしまいます。神様からの恵みを無駄にしないように、恵みが流れてしまう穴をつくらないようにしないといけません。エジプトを出たイスラエルの人たちは「神様どうしてこうしてくれないのですか?」と言ってしまいました。同じようにそのような事を、言ってしまう事はありませんか?イスラエルの人々がエジプトを出て、約束の地に入るまで、何度も不平不満を言っています。そして誰かのせいにして、言い訳を言っています。何か問題があると言い訳、つぶやきが出てしまうのではないのでしょうか?何かと理由を探して言い訳を見つけていませんか?「こうなら良いのに」とつぶやいてしまう事はありませんか?輪島塗という物がありますが、器が完成するまでに最低7年以上かかるそうです。木は湿度や温度によって変化します。だから十分に乾燥させないといけません。また漆も1度ではなく良いものになると、何度も塗っては乾かしを繰り返します。漆は乾くととても強いものになります。短期間や一時的では完成されないことを、この漆器によって学ぶことが出来ます。しかし今の流れは、ファーストフードやその時によれば良いような流れがあります。「その時が良ければ」と思っていますか?神様の目は一時的なことを見てはいません。私たちは「なぜこうなったのか?」という事を考えなくてはなりません。神様の計画の中には理由がないという事はありません。だから時間がかかるかも知れませんが、考える必要があります。人生年間という物があります。それによって、今までの歩がどのようであったかを知ることが出来ます。私たちの人生はファーストフードのように、単純で一時的なものではない事を、その事を通して確認する事が出来ます。『ピリピ4:4-7 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。』

「もう一度言います。」聖書の中で2回言われていることは、とっても重要なことです。だから、神様にあって喜ぶ事はとても重要なことになります。一回悪いことが起こったら、もう神様なんていらないうちで思ってしまうかもしれません。でも一時的な事にとらわれたら問題は解決することがありません。神様と共にいれば心が守られ、問題は解決します解決します。『1コリント 10:13あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。』試練とともに脱出の道も備えられます。問題があると言う事は、問題を起こす背後に問題があるはずですが、私たちは問題の背後の問題を見ないようにしてしまいます。問題が起こる問題に対して私たちは、人のせいにしてしまいます。自分にも問題があったはずですが、人のせいにして、済ませようとしてしまいます。「なんでこんな問題が起こるのですか?」と言ってしまわないででしょうか。「なぜですか?」「どうしてですか?」というような祈りをしていませんか?神様はつぶやきでも聞いてくださり答えて下さいますが「つぶやき」ではなく、感謝を持って祈っていかなくてはなりません。

①マサ(争い)「心に問題」あなたは霊と心と態度が一つですか?イスラエルの人たちは感情で反応しています。しかし感情的になりつぶやくのではなく、冷静に何が問題かを良く考える必要があります。問題を誰かのせいにしていませんか?誰かのせいにする事は、アダムとエバの罪と同じ事になってしまいます。人の初めの罪です。人のせいにしないようにしましょう。

②ファーストフードの人生

状況を良く考えないで、直ぐに飛びつかないようにしていきましょう。何でもから、直ぐになり、直ぐから適当になってしまいます。そして、不足に目を向けてしまいます。最近の若い世代の人たちは、目の前の問題を見ないので、結果そのように一時的な事に心をとられてしまっています。楽な方向に向かわないように、神様が語って下さっている事に耳を傾けていきましょう。

③つぶやく前に祈る

『出エジプト 17:14-16主はモーセに仰せられた。「このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう。」モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、「それは『主の御座の上の手』のことで、主は代々にわたってアマレクと戦われる」と言った。』神様はアマレクと戦われます。「主の御座の上の手」とは私たちが祈ることによって、勝利する事が出来る事を教えています。しかし祈りではなく、つぶやくと負けてしまいます。ヨシュアはどう戦いましたか?ヨシュアはつぶやかず、人のせいにしませんでした。しかしイスラエルの人たちは、問題があるとモーセのせいにしていました。自分の問題に目を向けるのではなく、人のせいにしていました。でも私たちは自分の前の問題と戦わなくてはなりません。一人ではなく神様と共に戦って勝利していきましょう。つぶやく前に、祈る必要があります。イスラエルの人たちは、つぶやきから人殺しに発展してしまっています。『ピリピ 4:6何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。』大きい事だけでなく、小さい事も祈る必要があります。また感謝して祈っていかなくてはなりません。1度ではなく真剣に求め続けなくてはなりません。祈りは受身ではありません。1人ではなく、チームとして戦っていきましょう。神様と共に戦う時にモーセやヨシュアが勝利したように勝利する事が出来ます。一人では「自分の力でした」「自分のおかげだ」と思ってしまう。しかしみんなですれば「神様がして下さいだから」と思う事が出来て、神様に感謝する事が出来ます。どんな問題も神様にあるのなら、必ず解決します。問題が解決され私が変わり、周りが変わり、私たちを通して素晴らしい事が起こります。そして神様に栄光が帰るようになります。(要約者:渡辺将宏)